

血液をサラサラにする薬について

最近、血液をさらさらにする薬の話をよく聞きます。実はこの効果を持つ薬にはたくさんの種類があって、弱いもの、強いもの、納豆を食べてもいいもの悪いもの、手術の前に止めたほうがいいもの、止めなくてもいいものなど様々なんです。理解しやすいように少し整理してみましょう。

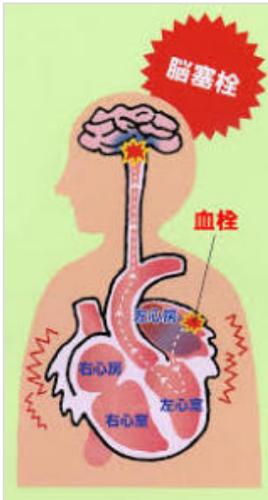
大きく分けると2種類

- ①抗血小板剤:血液の中を流れている血小板という細胞の効果を弱める作用があります。脳動脈の動脈硬化による脳梗塞、足の血管(動脈)がつまって歩くと痛くなる閉塞性動脈硬化症、狭心症や心筋梗塞でステント治療を受けた場合の血栓予防などに使われます。(アスピリン、パナルジン、プラビックス、プレタール、など数は②より多い)



主に足、脳、心臓の動脈が悪いときに使われます

- ②抗凝固剤:血液の中のべたべたしたくっつきやすい性質を促す成分を弱める作用があります。心房細動による脳梗塞の予防、心臓の弁を手術した後の血栓予防、エコノミークラス症候群など足の静脈に血液の塊がある場合などに使用されます。(ワーファリン、プラザキサ、



エリキュース、リクシアナ、イグザレルトなど)

主に弁膜症、足の静脈の血栓や心臓の中の血栓予防に使われます

①、②は作用機序がまったく異なり、病気によって使い分けていますが、どちらも血液サラサラの薬です。

ペースメーカーを植込みすることによって薬が必要になることはありませんが、心房細動を合併していれば②の薬が必要です。また狭心症を合併していれば①の薬が処方になることでしょう。

納豆やクロレラを飲んではいけないといわれている薬は②のうちのワーファリンだけです。ワーファリンはビタミン K を抑制することによって効果を発揮しますが、納豆や大量の野菜にはビタミン K が豊富に入っているため、効果が薄れてしまうのです。

また②の薬はいろいろありますがワーファリン以外は「心房細動による脳梗塞の予防」にしか使用できません。新しい薬なのでこれから適応症を増やしていくものと思われます。弁置換術後の方にとっては待ち遠しいですよ。

次回のリズムニュースでさらに詳しく各薬の違いを解説いたします